

県民公園「新港の森」の春夏秋冬の姿を見て、樹木の名前だけでなくパワーを体験しながら学びます。樹木はきれいな花がなく、地味で落葉が汚いとかどちらかと言うとマイナスイメージがあります。でも樹木は花の美しさなんて足元にも及ばないくらい面白くすごいことをやっています。気軽に参加できる公園で、たくさんの笑いがあって、自由に樹木について語り合える観察会にしていきます。

今回は日本鳥類保護連盟富山支部と川柳の会の方がお見えになっておられます。一緒に楽しみましょう。

#### なにかとマスコミな木

スギは、何かと世間を騒がせる木です。かつて「東京のスギが枯れたのは酸性雨のせいだ」と騒がれた時期がありましたが、現在では、本当の原因は「乾燥」だったと考えられています。屋久島のような多雨地帯を好むスギにとって、都会の踏み固められた土壌は、雨が浸透せず過酷な環境だったのでしょう。

明治神宮の森を造る際、当初はスギを植える計画もありましたが、当時の先人たちは「土壌の水分が少ない」「将来にわたり自然に維持される森を目指す」という理由で、シイやカシなどの広葉樹へと計画を変更しました。この賢明な判断が今の豊かな森を作っています。

しかし、被害は大きく報じられても、こうした科学的な訂正はあまり目立たないため、今でも「酸性雨で木が枯れる」と信じている職人さんも少なくありません。戦後、日本中に植えられたスギですが、今では国産材の利用が低迷し、単一な植生は生態系を変えてしまいました。さらに毎年花粉症によって、スギのイメージはすっかり悪くなってしまいました。しかし本来、スギは神社仏閣に欠かせない神聖な木です。お酒との縁も深く、麴造りの「麴蓋(こうじぶた)」や仕込みの「樽」に使われるほか、新酒の合図である「杉玉」にもその葉が使われます。何より加工しやすく、日本人の暮らしを支えてきた優良な木材なのです。

また、環境に適応する力も持っています。日本海側のスギは「ウラスギ」と呼ばれ、雪の重みで枝が折れないよう、雪が落ちやすい閉じ気味の葉をしています。一方、太平洋側の「オモテスギ」は葉を広げているのが特徴です。

子どもの頃、スギの枯れ葉を焚き火にくべると、一瞬でパツと燃え尽きるのが面白くて仕方がありませんでした。そんな懐かしい記憶とともに、私たちはもう一度スギの本当の姿を見つめ直すべきなのかもしれません。

ヒノキ科

スギ

Wikipedia より

*Cryptomeria japonica*

漢字名:杉

別名:なし

類似種: ヒムロ、ヒノキ、サワラ

針葉樹 常緑樹/高木/雌雄 同株異花

英名: Japanese cedar

花期:2~4月

果実期:10~12月

おもな植栽地 生息地: 寺社、公園、街路

原産地:日本

自生地:本州~屋久島

人為的分布:北海道南部以南

おもな用途: 材や樹皮は建築用、葉は線香に



### スギの葉っぱ



スギの葉を観察してみると、その姿や性質にはとてもユニークな特徴が隠されています。

長さは4ミリから12ミリほどで、鎌(かま)のように少し曲がった針のような形をしており、枝にらせん状にびっしりと生えています。葉の付け根は太く、枝と一体化するように伸びているのが特徴です。そのため、ふつうの木のように葉っぱだけが散ることはなく、寿命を迎えると小枝ごと地面に落ちていきます。一枚の葉は、およそ4年から6年もの長い間、枝に付いたまま樹を支え続けていると考えられています。

また、葉の断面をみると「ひし形」をしており、4つの面すべてに呼吸のための気孔があります。面白いのは季節による変化です。冬になると、新しい芽を寒さから守るために短い葉が密集して生えるため、枝についている葉の長さをたどると、一年ごとに短くなっている周期が見て取れます。さらに、冬の間は葉の色を赤褐色に変えて寒さに耐え、春が来ると再び鮮やかな緑色に戻るといふ、たくましい生命力も持ち合わせています。

### 人の体質は変化する



農家には、家の修理や立て替えのために使うスギやヒノキ用材の林が近くにありました。春先には花粉が飛びます。そのころには花粉症はあったのでしょうか。私が子どものころ、路地や草原で遊んで、鼻水を垂らしていた子も多かったです。私も蓄膿症で、病院で鼻を洗ってもらっていました。これは、衛生状態が悪いため細菌感染だったのでしょうか。



高度経済成長で暮らしがよくなり、衛生観念が進歩した結果、うがい手洗いの習慣は定着しました。洗剤や石けんで手を洗いすぎると、手が荒れる方が多いみたいです。肌を潤す脂が落ちすぎてしまうからです。O157という大腸菌が話題になったことがあります。常在菌が大腸菌の中に、毒性が強い変異菌(O抗原をもつ大腸菌で157番目に見つかった)あらわれて、中毒がおこりました。場所は、無菌

状態の給食施設でした。これは、無菌だから起こったできごとです。O157大腸菌は、細胞の半分を使って毒素をつくるタイプです。通常の常在菌の中では、競争に負けて死滅してしまいます。ところが、無菌では競争相手がいないので、繁殖することができたのです。

自然界で、自然の理がはたらくと、拮抗作用でバランスのとれた状態に落ち着きます。拮抗状態が乱れると問題が発生するのです。日本では衛生観念が進んで、抗菌があたりまえになりました。その結果、いまままで異物と認識していかった花粉が、免疫作用の中で異物として感知され、鼻水や涙でとりさろうとする作用がはたらくようになったのです。スギやヒノキが悪さをはじめたわけではなく、受け入れ先の私たちの体質に化が生じはじめたということです。



私は数年前から花粉症になりました。やはり体調、環境の変化なのでしょうね。



1992年に富山市内で偶然発見された、花粉を作らないスギの木。そこから育てられた苗木は「はるよこい」と名付けられました。当初、この性質を継承するには手間のかかる「挿し木」しか方法がなく、苗木の供給数は年間わずか500本ほどに限定されていました。

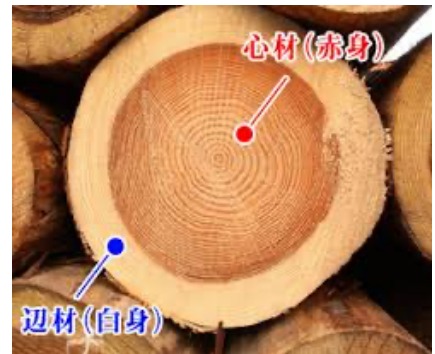
しかし、2009年に大きな転換期を迎えます。富山県森林研究所が、無花粉スギを「タネ」で増やす技術を開発したのです。無花粉スギは、雄花に花粉を作る能力がなくても、雌花にはタネを作る能力があります。ここに「無花粉の遺伝子を持つスギ」の花粉を受粉させることで、効率的に次世代を育てられるようになりました。最大の課題は、育てた苗が本当に「無花粉」かどうかを判別するのに、通常15～20年もかかることでした。これを解決したのが、日本人が発見した植物ホルモン「ジベレリン」です。この液を苗木にかけると、わずか2年で花を咲かせることができ、短期間での選別が可能になったのです。

こうして誕生した次世代の無花粉スギは、2012年に「立山森の輝き」と命名されました。この画期的な技術により、現在では数万本単位での苗木出荷が実現し、花粉のない森づくりが着実に進んでいます。

「はるよこい」はサクラ広場の近くに植えられています。

### スギの使われ方

スギの分布は南限が屋久島、北限が青森。日本にしか自生していない樹木です。木部は軽柔で乾燥すると軽くなります。割れやすい性質が、縄文、弥生のころから生活に広く利用されてきました。江戸時代、都市で発生する糞尿を肥料として近郊農家が活用できたのも、スギ材でできた軽くて使いやすい桶があったからです。西洋ではナラ材で



作る樽はありましたが、桶になる木材がなかったのです。液体を気軽に運べる桶は、水売り、金魚売りなどの風物を影で支えていました。墓参りで、身を香の煙で清めるときに使う線香も、スギの葉から作ります。新酒ができたサインは、酒蔵に飾られた杉玉を飾りました。

お酒好きの人はスギの香りがする酒樽に入った満寿泉はたまらないのではないのでしょうか。瓶がなかったころ、酒樽は欠かせないものだったのでしょう。杉の酒樽には、芯材(赤身)と辺材(白太)が使い分けられています。

香りの良い芯材は酒の熟成や香り付けに、耐久性や加工性の高い辺材は外側の耐久性や樽の見た目を美しく保つために利用されます。また、杉の香りは酒造の神様への感謝や品質の証しともされています。

### スギの線香

お彼岸やお盆の墓参りには、ろうそくと線香は必需品です。昔の和ろうそくはハゼから作っていました。風にも消えにくく、墓で灯すには向いていますが、いまではなかなか手に入りません。線香は緑色のスギの線香が主流ですが、その工程はあまり知られていません。昔からのやり方がNHK新日本風土記で紹介されました。まず、スギの木から枝を収穫します。昔は水車の動力でスギの葉を粉碎しました。スギの葉は2センチ程度に粗く刻み、それを水車小屋の中の木の臼に入れます。水車でまわる木の歯車を使って木の杵を上下させて、



スギの葉を一昼夜つきます。やがて土色をした粉ができあがります。電動で早くつくと熱を持つので、昔ながらの木の臼と杵を使い、水車のリズムでつくほうがいいものができるのです。

こうしてできたスギの葉の粉をふるいにかけてさらに細かくして、直径が約60cm程度の桶に入れ、お湯を注いで機械で練り上げます。約5分程度で練り上がります。使う材料はそれだけ。糊やつなぎの類はいっさい入れません。お湯で練っているうちに、スギに含まれるヤニが糊の代わりになり自然にまとまります。練り加減が微妙でむずかしいそうです。こうして練ったものを線香の形にするには、2mmほどの穴が多数あいているステンレスの板をプレス機の底にはめて、先ほどの粘土状になったものを水車の力で上からプレスすると底からそうめんのように出てきます。それを板で受け止め、乾燥させるのです。

本物のスギの線香はスギ以外の混ぜ物はしないのだそうです。香料を混ぜて香り付けをするタブノキ線香とはここが違います。ただ安い外国産の線香には混ぜ物がしており、毎日読経するお坊さんのなかでも喉を痛める人が出てしまい、線香の煙に含まれた合成添加物の成分に気がつくということもあるそうです。

#### 農作業のリマインドフラワー

リマインドとは、「思い出させる」「思い起こさせる」という意味であります。

モクレン科の花芽は毛があるものが多いですが、微妙に手触りが違います。コブシの方がハクモクレンより柔らかい感じがします。この毛皮の花芽カバーは、ひと冬で二～三回脱ぎ捨てられ、新しい方が手触りは良いです。花芽カバーを拾って指先につけると、毛深いネイル遊びができます。

モクレン科  
コブシ

Wikipedia より

*Magnolia kobus*

漢字名: 辛夷

別名: ヤマアララギ、コブシハジカミ、田打ち桜

類似種: ハクモクレン、タムシバ

広葉樹 落葉樹/高木/雌雄同株・同花

英名: Kobushi magnolia

花期: 3～4月

果実期: 9～10月

おもな植栽地 生息地: 住宅、公園、街路、里山

原産地: 日本、济州島

自生地、人為的分布: 北海道～九州

おもな用途: 観賞用、材は建築、家具、器具、楽器に



花にはオマケの葉が一枚

実が拳を握っているよう



白い花 オマケの葉っぱ 太古から 花芽柔らか コブシ握る実

花は小さな葉っぱをオマケにつけて咲きます。似たハクモクレンやタムシバには葉のオマケがつかず、見分ける手がかりです。花の香りは良いですが、花弁の匂いはほんのりゴム臭。一面に落ちた花弁から、ゴムの匂いが漂い笑ってしまいます。実が拳のような形をしているから、コブシとなったのですが、受粉した所だけ赤い実がなり、でこぼこで変形です。落ちて泥まみれの実を踏んだ時には、うんこ踏んだかとあせります。

コブシは北海道、本州、九州に分布し、「田打ち桜」とも呼ばれます。田んぼに鍬を入れ春が来ましたよ、と知らせる花でもあります。コブシは里山で春一番に咲くので、地域によっては芋の植え付けなど、農作業の目安になっています。

### コブシの「お着替え」の特徴

- 冬の防寒着: ベルベットのような毛に覆われた芽鱗(がりん)が、厳しい冬の寒さからデリケートな花芽を保護しています。
- 開花のサイン: 暖かくなるとこの皮が割れ、中から白い花がのぞきます。このタイミングがまさに「お着替え中」と言える状態です。

### コブシの芽が「ネイル」に見える理由

- 質感: 冬の寒さから花を守るため、冬芽は銀白色の細かな産毛に覆われています。これがベルベットやモヘアのような、マットな質感のネイルを連想させます。
- 形: ぷっくりと膨らんだ楕円形のフォルムは、丁寧に整えられたオーバル形の爪のようです。
- 色味: 柔らかなグレーや薄緑色が、ニュアンスカラーのネイルのように上品で落ち着いた印象を与えます。



日本自然保護協会「会報」より

### 自然暦としてよく使われる自然の事象



#### サクラ

写真のソメイヨシノほか、早咲きのオシマザクラや遅咲きのヤエザクラなど、地域の桜が農事の目安とされた。



#### コブシ

3～5月に開花。地域によっては「田打ち桜」と呼ばれ、田んぼを掘る田打ち作業の目安とされている。



#### ツバメ

3～5月に南方から子育てのために日本列島に飛来。越冬のために旅立つ9月17～21日は七十二候で「玄鳥去(つばめさる)」。



#### 雪形

山肌の残雪の形を鳥や馬などに見立てたもの。雪形の出現を農作業の目安とした。写真は妙高山の「跳ね馬」



#### 山菜

伸びてしまえば食べられなくなる山菜は、収穫の時期が短い。身近な自然暦として活用されている。



#### タネツケバナ

田んぼに咲く小さな白い花。種もみを水に漬ける時期の目安とされてきた。

冬の終わり、まだ花の少ない時期に、コブシの木を見かけたらぜひ指先を添えて、季節限定の「天然ネイル」を楽しんでみてください。今回は時期はずれで開花済みでした。

### 自然暦 自然観察に発する自然暦

みなさんはサクラやツバメを見て春や夏を知りますね。また、年配の方はスーパーや魚屋で魚を見て季節を感じておられるはず。また、全国の各地域で長い年月にわたって蓄積されてきた自然観察の結果はことわざや言い伝えられています。「ツバメが低く飛ぶと明日は雨」のように全国共通のものもあれば、「〇〇山に雲がかかればもうじき雨になる」というような地域的に固有のローカルなものもあります。これらは日常の自然観察から得られた経験知と言えるでしょう。

### サクラ茶で若き日を思う

3月3日のひな祭りには桜餅が食べたくなる人も多いでしょう。桜餅を包んでいるサクラの葉はオオシマザクラという野生種の葉です。塩漬けにされた葉からは桜餅に、なくてはならない香りがします。クマリンという成分の香りですが、他の種類の桜の葉ではあまりクマリンの香りはしません。オオシマザクラの葉にはクマリンを合成する酵素があるため、桜餅に特有の香りがするのです。

生け花をやられる方は、早春に出まわるケイオウザクラはシナミザクラ(支那実桜)を台木に、コヒガンザクラ(小彼岸桜)を接ぎ木して誕生した、冬(12月~3月)に花を咲かせる早咲きの桜です。切り枝用の品種ですが、シナミザクラ系の品種なので花に香りがあります。

このシナミザクラ系の桜は、花が終わり若い葉が伸び出すころ、葉が褐色に縮れたような病気が発生します。もし葉が縮れていたら匂いを嗅いでみてください。桜餅の香りがするはず

です。クマリンの香りは私たちには桜餅を連想させるよい香りですが、サクラにとってクマリンは菌や虫に対する防御物質です。高級楊枝に使われるクロモジというクスノキ科の低木も、枝の材が甘いよい香りがします。この香りもシカ等の食害を防ぐ香りなのです。

サクラの葉っぱにはクマリンという成分が含まれています。桜餅を包んでいる塩漬けのサクラの葉はオオシマザクラという野生種の葉です。オオシマザクラの葉にはクマリンを合成する酵素があるため、桜餅に特有の香りがします。落葉したあとの落葉も香りがします。根のまわりの土壌も雑菌を防御しているのです。クマリンの香りは私たちには桜餅を連想させるよい香りですが、サクラにとってクマリンは菌や虫に対する防御物質です。

ソメイヨシノはオオシマザクラの血統ですのでクマリンの香りが若干します。

### 春のおしゃれはフワフワで

春の芽吹きは、乾燥や寒さ、あるいは虫から身を守るために、植物が柔らかな「毛」をまとっている時期です。

1. 芽吹き「毛」をルーペで覗く

せん孔褐斑病は食害ではありません

#### せん孔褐斑病 Brown shot hole

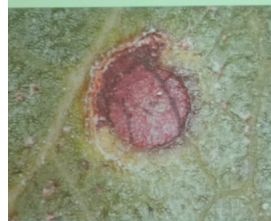


葉面に褐色の小斑点を生じ、次第にその斑点が拡大して2-5ミリの円形の褐色斑点になる。

健全な部分との境界がはっきりとし、病斑部が脱落するので、葉にはたくさんの小さな穴が残る。

現在は防除として「ベンレート」「トップジンM」などの薬剤を定期的に散布されている。

#### せん孔褐斑病 Brown shot hole



2-5ミリの円形の褐色斑点



病斑部の脱落した跡

多くの樹木は、展開したばかりの若い葉や芽を「毛」で保護しています。

- コナラやイヌシデ：芽吹いたばかりの葉の縁には、銀色の繊細なうぶ毛がびっしりと生えています。光に透かすとフワフワと輝き、非常に美しいです。
- コブシ・モクレン：冬芽を包んでいた厚手のコートのような毛皮が、花が咲くのと入れ替わりで落ちていきます。これを実際に触って、その質感を確かめます。

## 2. 「柳の綿毛」と花の質感

- シダレヤナギ：春のフワフワの代表格です。なぜこんなに柔らかいのか、その構造を観察します。
- 花の「おしべ」：サクラやカエデの花を近くで見ると、無数のおしべがフワフワとした筆先のように見えます。

## 3. 足元のフワフワ：苔と落葉

- コケの観察：春の雨を吸って立ち上がったコケは、手で触れると驚くほどフワフワとしています。
- 落葉のクッション：昨秋に落ちた葉が分解され、土に還る途中のフカフカした地面。実はここにもクマリンが含まれていて、雑菌を防ぎながら次の命を育てています。



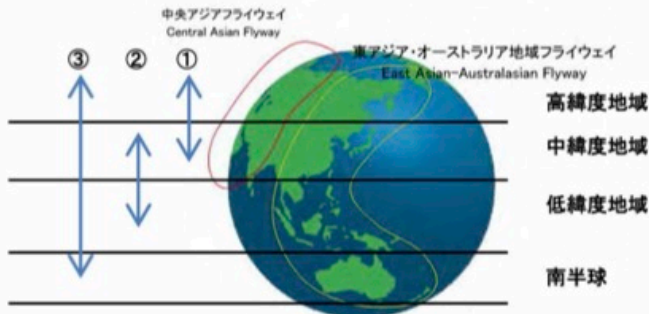
下見で見つけたフワフワ  
さあみなさんで探してみましょう。



**渡りに船？・渡り鳥の生態**

- ・日本で見られる野鳥の多くは季節により移動。
- ・移動する距離は、山地と平地、北海道と本州、日本と海外など様々。
- ・日本と海外とを移動するものを「**渡り鳥**」と呼んでいる。
- ・夏に日本を訪れる鳥を「**夏鳥**」、冬に訪れる鳥を「**冬鳥**」、渡りの途中で日本に立ち寄る鳥を「**旅鳥**」と呼んでいる。※国内の移動は留鳥・漂鳥。※本来の生息地外からの飛来を迷鳥。
- ・日本で見られる代表的な冬鳥は、マガモ・コガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・マガン・オオハクチョウなど（図2）。
- ・日本で見られる冬鳥の多くは夏の間シベリアで繁殖し、寒い冬を日本や東南アジアなどで過ごす（図1の①）。
- ・カモ類など冬鳥の主な渡りの経路はカムチャッカ半島・千島列島経由、樺太経由、日本海横断、朝鮮半島経由などが考えられている。※引用：環境省HP

**渡りの移動範囲**



- ① 高緯度地域で繁殖し、中緯度地域で越冬（日本では冬鳥）
- ② 中緯度地域で繁殖し、低緯度地域で越冬（日本では夏鳥）
- ③ 高緯度地域で繁殖し、低緯度地域や南半球で越冬（日本では旅鳥）

図1 日本周辺の東アジアの渡りルート

富山県版  
渡り鳥の内訳  
冬鳥：29%  
夏鳥：14%  
旅鳥：29%  
留鳥：20%  
迷鳥：8%  
  
引用：富山県  
版レッドリス  
ト2025

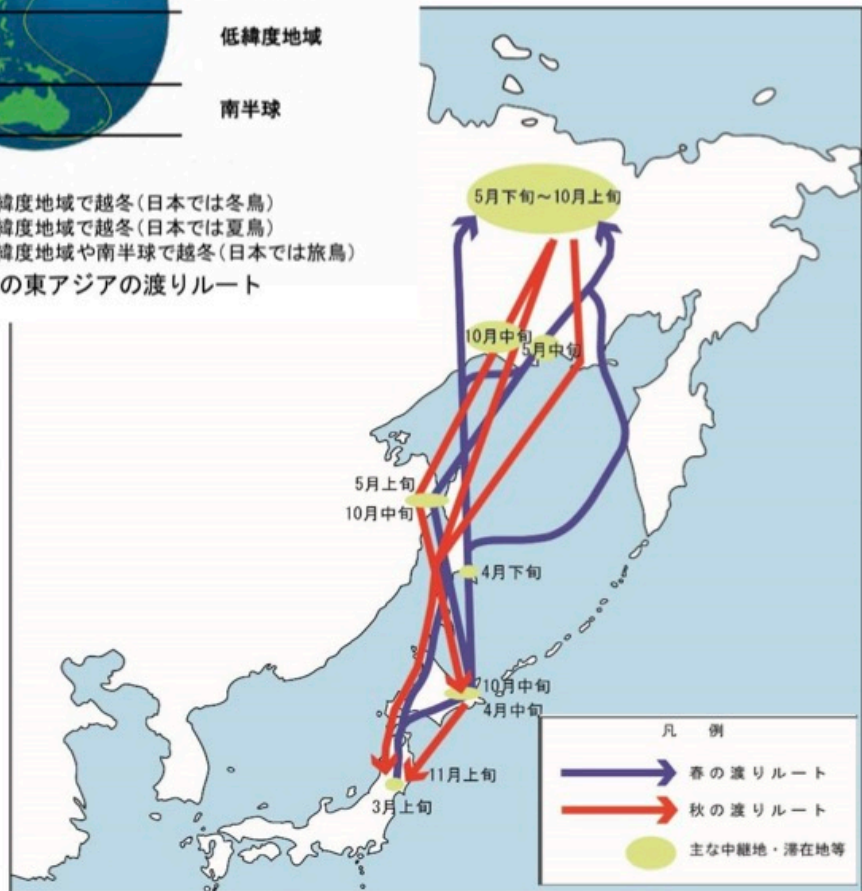


図2 オオハクチョウの渡りのルート

新港の森春の観察会 鳥合わせ表

(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部

参加者：

気温

天候

日時：2026年4月18日      ：   ～   ：

風

科別		
NO	種名	科名
1	アオゲラ	キツツキ科
2	アオジ	ホオジロ科
3	アオバト	ハト科
4	アカハラ	ヒタキ科
5	ウグイス	ウグイス科
6	エナガ	エナガ科
7	オオルリ	ヒタキ科
8	オナガ	カラス科
9	カワラヒワ	アトリ科
10	ククイタダキ	ククイタダキ科
11	キジバト	ハト科
12	キビタキ	ヒタキ科
13	クロツグミ	ヒタキ科
14	コサメビタキ	ヒタキ科
15	コチドリ	チドリ科
16	コルリ	ヒタキ科
17	シジュウカラ	シジュウカラ科
18	シメ	アトリ科
19	シロハラ	ヒタキ科
20	スズメ	スズメ科
21	センダイムシクイ	ムシクイ科
22	タシギ	シギ科
23	ツグミ	ヒタキ科
24	トビ	タカ科
25	トラツグミ	ヒタキ科
26	ノゴマ	ヒタキ科
27	ハイタカ	タカ科
28	ハクセキレイ	セキレイ科
29	ハシブトガラス	カラス科
30	ヒガラ	シジュウカラ科

科別		
NO	科名	種名
31	ヒバリ	ヒバリ科
32	ヒヨドリ	ヒヨドリ科
33	ヒレンジャク	レンジャク科
34	ピンズイ	セキレイ科
35	ホオジロ	ホオジロ科
36	マミジロ	ヒタキ科
37	マミチャジナイ	ヒタキ科
38	ムギマキ	ヒタキ科
39	ムクドリ	ムクドリ科
40	メジロ	メジロ科
41	モズ	モズ科
42	ヤブサメ	ウグイス科
43	ルリビタキ	ヒタキ科
44		
45		
46		
47		
48		
49		
50		
51		
52		
53		
54		
55		
56		
57		
58		
59		
60		

\* 参考図書：野鳥図鑑670  
2014年3月 文一総合出版

(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部  
事務局 自然博物館ねいの里内  
tel 090-4065-3324      090-6937-0703  
斎藤：wkl-sai@p2.tst.ne.jp   野口：info@oec-oec.co.jp